

## 路線バス運行見直しに係る地域懇談会での意見 (H28.1/17,18)

この時点では、高校生の通学対策について未定の部分が多く、担当課としても十分な説明ができませんでした。

●は質疑に対する担当課の回答です。

### 【蘇原地区】1月17日(日)夜

- 蘇原線は減便され、黒川線はそのまま残り高校生の通学手段の点で不公平ではないか。
- 切井で8人程度通学にバスを利用しており、町としても代替運行をしなければいけないと考えている。(ハイエースクラス)
- 濃飛バスへの補助金を減額し、その分で代替運行をするべきではないか。
- バスの走行距離が減るので補助金は減ると考えているが、運輸局への手続きなど、すぐに代替案をつくり運行することは難しい。公共交通会議を設置しそこで協議して運行できるようにしていきたい。
- 病院のバスも活用してほしい。
- 高校生が使う朝の便がなくなるのは困る。切井の奥の方では、子どもの高校進学にあわせて家族で白川町からでていってしまう。町でバスを購入してでも運行してほしい。
- 小中学校のスクールバスにも乗れるようにしてはどうか。
- タクシーの活用も検討しては？
- 高校生料金を100円にしても乗らないのでは？ 蘇原線はほとんど親が送迎している。
- 濃飛バスがなくなると下宿生が増え、若者の転出が増加してしまうのではないか。
- バスがなくなっても車のある人は困らないが、何年後かは交通手段がないと困るが、今は身に迫った話ではない。
- とにかく早く次の手を打つべき。高校生の通学対策、運転手の確保もシルバーへ委託か、スクールバス運転手に頼むなど。バスがなくなることへの想いを聞いている場合ではない。
- 今の路線バスと同じものを町がやったとしても乗らない。利便性が悪い。後山や日向など困っている地域があるのなら、それに対応した方法が必要。(赤河自治協議会長)
- バスの代わりに小さい車でやりすぎても、タクシーと競合してしまう。タクシーにも協力してもらおうことを考えるべきではないか。

## 【佐見地区】1月28日（月）夜

- 来年度は以降はこのままいけるのか。さらに減便になるのではないか。
- 今は、下油井駅まで親が送迎しているが、土日も含めていざという時にバスを使っている。そのバスがなくなるとするのは不安です。
- 今は乗る人がいなくても、今後利用する人があるかもしれない。1人でも利用者があれば対応も必要と考えている。  
ひと・もの・しくみを整えることに時間がかかってしまう。4月までには間に合わない。
- 運転手不足は濃飛バスの勝手。町営バスを運行してほしい。佐見であれば10人乗りでも対応は可能。

### まとめ

- 使いたいときに使えなくなってしまう。今利用している人、利用しようとしている人の対応を早急にしてもらいたい。  
ただ空バスを見ていただけだが、すごい額の税金を使っていたんだと...  
もっと早くに何か別の方法を考えられなかったか。無駄なお金を早くよい使い道に。  
子どもが減ることは分かり切っていたこと。みんなで考えていかなければ。
- 濃飛バスの減便は仕方がない。  
小学校スクールバスに中学生、高校生も乗せることはできないか。難しいのなら、スクールバスではなく、町でバスを運営するとか、新しく民間に委託するなどの案を町がつくってこないと深い話しができない。
- 朝、夕のバスがあってもなくても、佐見は外へ出て行ってしまおう。  
車イスでも乗れる車があるとよい。家の前まで  
保育園児はスクールバスに同乗してはどうか。
- 濃飛バスは廃止を前提として話しを進めていかないといけないと思う。これだけ減便になっても補助金を出さないといけないのはもったいない。  
スクールバスも含めて交通を考えてほしい。
- 減便はバス会社としての問題だと思う。廃止されるのは目に見えている。  
スクールバスの活用を福祉方面にも考えてほしい。
- お年寄りにもっと乗ってもらえるようにしないといけない。(例えば、車内でお菓子を販売するとか)
- こんな状況になって公共交通の大切さがわかる。運転手が確保できれば濃飛バスは復活できるのか。  
100円運賃を一般にも拡大して、みんなが乗れるようにしてはどうか。  
ボランティアの高齢運転手は危険もある。地域の人に頼めば3,000円くらいお礼を払っている。  
運転免許証を返納してバスに乗っている高齢者は本当に公共交通のありがたさを感じている。
- 高齢になって運転できなくなってからバスがないと困る。自治会費のように月額いくらというように払ってもいいので残してほしい。  
型にとらわれない利用しやすいバスにしてほしい。